



「チーム防災」

～市内防災団体のネットワークを生かした
啓発活動と災害支援活動～



広島県 三原市防災ネットワーク
会長 竹原 茂

1 はじめに

「自分たちのまちは、自分たちで守ろう」を合言葉に三原市内の防災団体が結集し、各自が持つ知識、技量、労力を生かして地域の防災力の向上を図ることを目的として、平成20年4月に「三原市防災ネットワーク」を設立しました。

現在では、ボランティア、社会福祉協議会、福祉、自主防災組織、防災士、アレルギー、地元メディア、行政等に係る13団体が参加し、1つのチームとして防災活動に取り組んでいます。

設立以降、構成団体相互で連携した情報交換や防災啓発活動を継続的に実施しているほか、三原市が甚大な被害を受けた平成30年7月豪雨災害の際には、被災地への支援を精力的に行いました。

2 構成団体間の「顔の見える関係」づくり

本会は、毎月1回の定例会を開催し、各構成団体の活動報告や団体が抱える課題の共有など、情報交換を行う場を設けています。

構成団体間の連携としては、アレルギー疾患に関する学習会での防災士による講話、地域で行う自主防災組織の防災訓練への相互参加、地域メディア（テレビ・ラジオ）の防災啓発番組に構成団体のメンバーが出演するなど、各団体がこのネットワークを生かして防災啓発の幅を広げています。

また、本会の代表者が「三原市民と市長の『みらいトーク』」に出席し、三原市長と市の

防災における課題について意見交換を行うなど、行政との連携も図っています。

このような定期的な対話や情報交換を通じ、普段からの「顔の見える関係」づくりを進めています。



三原市民と市長の「みらいトーク」

3 講演会や体験会を通じた防災啓発

本会の具体的な啓発活動として、毎年、市民の関心が高いテーマを検討し、「防災講演会」及び「防災体験会」を開催しています。

防災講演会は、新型コロナウイルス感染症の流行や個別避難計画作成の努力義務化など、時勢に応じたテーマを検討して講師を招き、市内の自主防災組織等による活動事例紹介なども交えながら実施しています。

防災体験会としては、実際の避難所となる中学校体育館を会場として「避難所体験会」を開催するほか、三原市市民防災訓練、三原消防まつり、地元スーパー主催の地域連携イベントなど、たくさんの市民が訪れる行事に

も参画し、防災グッズの展示、防災紙芝居、車椅子体験、アレルギーに係る課題紹介など、様々な団体が所属することを生かした多様な防災啓発を行っています。

また、近年は、少年消防クラブの防災研修

にも参加し、地震災害を題材とした「なまずの学校」ゲームの体験や炊き出し試食を行うなど、将来の三原市を担う世代への防災教育の面にも力を入れています。



防災講演会の様子



避難所体験会



三原消防まつり



少年消防クラブ防災研修

4 おわりに

本会の講演会や体験会の参加者アンケートでは、災害時の避難所にどんな課題があるか、自分がどんなことを備えるべきか具体的にイメージすることができた、といった意見を多くいただいております。本会の活動が市民の避難や備蓄品の準備などの行動促進につながっていると思います。

令和4年度には、本会の15年間の継続的な防災への取組が評価され、「第47回防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会会長賞」を受賞しました。このことを大いに励みとしながら、今後も本会の強みである防災団体間の連携、つながりを生かし、三原市の「チーム防災」として、幅広い防災活動を継続していきたいと考えています。